

『第3版 誰も教えてくれなかった婦人科がん薬物療法』 正誤表および最新情報

『第3版 誰も教えてくれなかった婦人科がん薬物療法』（2025年4月10日第1版第1刷）におきまして誤りがございました。

ここに深くお詫びいたし、訂正申し上げます。

(2025年5月14日 メジカルビュー社編集部)

11頁 次サイクル開始基準

誤	正
UPC比>3.5	UPC比<3.5

81頁 適格基準

誤	正
クレアチニンクリアランス $\leq$ 50mL/分	クレアチニンクリアランス $\geq$ 50mL/分

101頁 エキスパートによる解説

新
Tisotumab vedotinは、Tissue factorに対するモノクローナル抗体に、微小管阻害剤薬のvedotinをペイロードとして結合した新規ADC（抗体薬物複合体）である。 進行・再発子宮頸がんの二次治療として、新規薬剤のTisotumab vedotinと、主治医選択の薬物療法（トポテカン、ビノレルビン、ゲムシタビン、イリノテカン、ペメトレキシドのいずれか）とのランダム化比較試験で、Tisotumab vedotinは主要評価項目の全生存期間（OS）で、11.5カ月 vs. 9.5カ月と優っていた（HR 0.7；95%CI 0.54-0.89, p=0.004）。この結果より、Tisotumab vedotinは、子宮頸がんの二次治療として標準治療の位置を確立したといえる。 Tisotumab vedotinの注意すべき副作用としては、眼副作用（結膜炎、角膜炎、ドライアイ）があり、約10～30%に起こる。重症例（Grade 3以上）になることは少ない（約3%）が、眼症状に対しては、眼科医にコンサルテーションできる体制づくりが望ましい。また、微小管阻害薬の特徴である末梢神経障害も35%に生じるので注意が必要である。